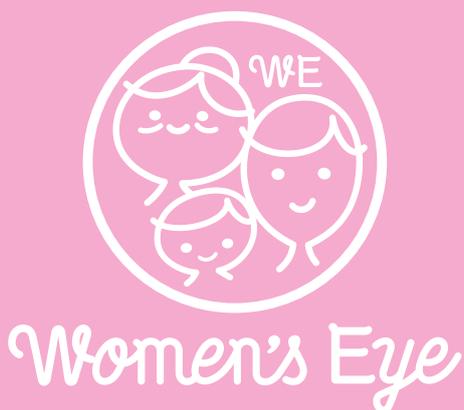


2014年度
特定非営利活動法人ウィメンズアイ
年次活動報告書・決算報告書

2014年6月～2015年5月



NPO 法人ウイメンズアイです。WE (ウィ) と呼んで下さい。

女性のまなざしをいかしたしなやかな社会を

集う、まなぶ、互いに信頼する、ともに成長する。

小さな輪がいくつも生まれ、重なり、つながり合うことが、地域の力を高めます。

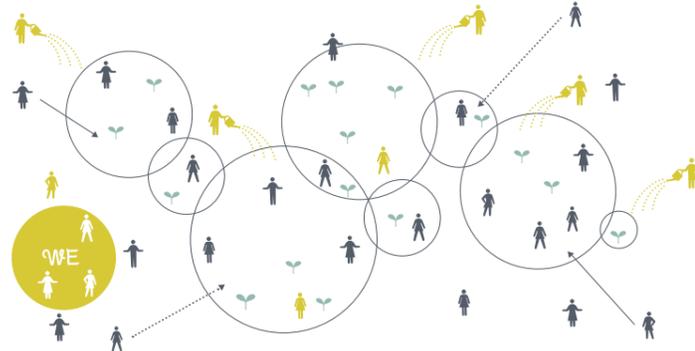
くらしの課題をまっすぐ見すえ、

社会的な弱者を支える女性たちの背中をウィは後押ししていきます。

2014年度のウイメンズアイ

ウィの考えるテーマ型コミュニティ

2014年度、NPO法人ウイメンズアイは「テーマ型コミュニティの育成」を事業の柱に据えて活動してきました。もともとある「タテの人間関係」を共通の課題、趣味や関心といった「ヨコの人間関係」で積極的に補完することで、地域のレジリエンスを支えるセーフティネットをつくりたい。そのために、地元にある集いの種を育て、あらたなコミュニティを生み出しています。



国連のグッドプラクティスに

この「広域生活圏におけるテーマ型コミュニティ育成事業」は、3/14-18に仙台で行われた国連防災世界会議に際して発刊された事例集「レジリエントな開発に有効な女性のリーダーシップ～事例と学び～」の、世界のグッドプラクティス12事例のひとつに選ばれました。ウィのスタッフも一緒に活動をつくってくれている地域の女性たちも、これを励みに一歩ずつ進んでいきます。

*発行元：国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)



Message from Women's Eye

2014年度は4週間にわたってボストンでの研修に参加してきました。主宰のJWLI (Japanese Women's Leadership Initiative) は、日本社会に変革をもたらす女性リーダーの育成を目指し、NPO運営研修と女性のリーダーシップ研修を行っています。世界で求められるリーダーシップは、旧来型の強いリーダーが率いるやり方ではなく、チームの多様性や個性を活かしチームみんなで歩んでいく、新しいタイプのリーダーシップだとまなびました。わたしたちが地域の女性たちと経験してきた、一段上にいるのではなく、人と人の中に入り人をつなぎ一人ひとりの話を聞きながら応援していく、リーダーとはあえて呼ばない、女性ならではの地域のお世話係の特徴と重なります。

あまり目立たないで地域の役に立ちたい、でもいくつになってもまなびたいと目を輝かせる女性たちが、ウィと共に南三陸まなびの女子会やシングルマザーの会等の活動を通して、人前で課題について自らの意見を話し、行動にうつしていくことで、一人ひとりのリーダーシップの力が培われていくことを実感してきました。そのまなびから生まれたプロジェクト「テーマ型コミュニティ育成事業」が、UNISDRのグッドプラクティスに選ばれたのは本当に嬉しいことでした。ウィの役目は、地域での女性たちのまなびと実践を共に積み重ねながら、地域と世界の経験をつなぎ、これからも女性の活躍を応援していくことです。

特定非営利活動法人ウイメンズアイ 代表理事

石本めぐみ



Women's Eye 活動ハイライト

〈リーダー育成〉

国際地域女性アカデミー in Tohoku

国連会議で来日する国際NGOと共に 次世代女性リーダー育成の機会を

中南米、アジアなど世界10カ国の草の根リーダーたちと東北被災3県の次世代を担う女性たちがまなび、交流する「国際地域女性アカデミー in Tohoku」を開催しました。国連防災世界会議仙台の開催にあたり、世界の草の根地域活動ネットワークである国際NGO ホワイロウ・コミッション (本拠地：ニューヨーク) が災害後の復興で活躍する女性リーダーに研修を行うことを知り、受け入れ団体としてウィとパートナーシップを組んだことが発端です。

岩手・宮城・福島各県のコーディネーターに復興活動に携わる次世代女性リーダーを推薦していただき、2015年2月に2日間の国内参加者事前研修を実施。自身の活動の言語化と課題共有、世界的な防災枠組みの潮流や、ダイバーシティについてのレクチャー、堂本暁子氏を囲んでの「リーダーとチャレンジ」についての対話などを行いました。

3月、ホワイロウ・コミッションから世界各国の地域女性リーダー及び専門家、計15名が南三陸町を訪れ、町の現状を視察。町内で活躍する女性たちと交流、対話を行ったのち、国内参加者との国際研修 (日本語・英語・スペイン語、同時通訳) にのぞみました。国内参加者は世界のローカルと直接つながるとともに、世界への発信方法をまなぶことでひとつ上からの視野を獲得し、海外参加者は3.11後の東北の生の情報に触れる有益な交流となりました。

アカデミーの最後には、南三陸町とオープンフォーラムを共催。佐藤仁町長による「女性が元気な町・南三陸」のメッセージに続き、各国参加者によるこの2日間の成果発表、安藤美姫さんの対談などが行われ、最後に南三陸町内の中学校たちが「災害に備え自分ができること～わたしコミット」を国連会議出席予定者に手渡しました。

多くの方々に支えられ開催したこのアカデミーとオープンフォーラムにおける南三陸町でのまなびについては、パートナーであるホワイロウ・コミッションのメンバーが国連防災世界会議本会議開会式のスピーチで、各国首脳が並ぶなか発表してくれました。

主催：国際地域女性アカデミー実行委員会 [事務局：NPO法人ウイメンズアイ]、Huairou Commission、南三陸町 (オープンアカデミーのみ共催)
寄付：フィッシュファミリー財団、2015防災世界会議日本CSOネットワーク (JCC2015)、Japanese Women's Leadership Initiative Association (JWLIA)、杉江陸
助成：(株)ラッシュジャパン、米日財団
協賛：(株)カミツレ研究所 (華蜜恋)、マルニ食品 (株)、(株)ウジエスナーグループ
協力：(株)博報堂、(有)ダ・ハプランニングワーク、米日カウンスル "TOMODACHI"
後援：南三陸町教育委員会、(一社)南三陸町観光協会、東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター、NPO法人いわて連携復興センター、NPO法人ウイメンズアイ、認定NPO法人国連ウイメンズ日本協会、復興庁宮城復興局、(公財)せんだい男女共同参画財団、宮城県



▲南三陸町でのアカデミー2日目は、岩手、宮城、福島の各県に別れてのグループワーク。通訳を交えて、経験豊富な各国の女性リーダーたちと意見交換しながら課題の整理とアクションプランの策定を行いました。



▲1泊2日の事前研修は、秋保温泉で開催。目の前の課題といかに向き合うのか。大きな視野を持つことがいかに重要か。世界といかにつながるのか。堂本暁子さんの長年の経験に基づくお話を若い参加者たちからたくさん質問が出て、熱のこもった対話となりました。合宿研修で国内参加者同士の交流も深まりました。



▲ホンジュラス、インドネシアなど、世界各国で草の根のNGO活動を行う女性たちはみんなバワフル。研修の合間に体ほぐしのダンスを教わりました。



▲フォーラムの最後に、町内の中学校たちから託された「わたしコミット」は、国連防災世界会議のピープルスナビオンに展示されました。



DATA

- 国内参加者事前研修 → 仙台、南三陸町、郡山で合計4回開催、参加者39名、講師・ボランティアなど含め合計参加者45名
- 国際研修 (グラスルーツアカデミー) → 南三陸町で2日間開催 参加者52名、運営スタッフ含め合計90名
- オープンフォーラム (南三陸町との共催) 参加150名

〈コミュニティ〉

南三陸まなびの女子会

みんなの町の未来をつくるため
中越にまなぶ、多世代の取り組み

2014年春。震災から4年目に入っても茶色い砂ぼこりをあげる南三陸町沿岸では復興を実感し未来を見通すことが難しい状況になっていました。そこで、震災からちょうど10年を迎えた中越での復興期の取り組みを参考に、町の未来を考える会を企画しました。南三陸町内4地区の40代から70代の女性たちが集まり、7月に2泊3日で旧山古志村など長岡市の各所を訪問。その後、月1回の勉強会を続けながら町内30代女性たちの参加も促し、陸前高田・大船渡へのバス視察を経て、2015年2月には町内で自治会や行政の方もお招きしての活動発表会を行いました。

次の世代がこの町で働きたい、子育てしたいと言えるようになるためにも、多世代が交流でき、子育てがしやすい町をめざしたい。会を通じて、自分が感じたことを、自分の言葉にして伝えることを大事にしました。今後もまなびを続けていきます。



▲中越から戻ったメンバーは、町の女性たちに視察の内容をシェア。印象深かった「多世代交流館にニューナ」代表の佐竹直子さんには長岡から来ていただき、みんなそれぞれに感じたことを話しました。

▲中越で泊まった農家民宿「おこの木」では、地元のお母さんたちの心づくしの食事で交流。このあとはみんな立ち上がり、踊りの披露とあいなりました。

DATA

■まなびの女子会 → 11回開催 町の女性たち のべ93名、講師やボランティアを含めてのべ136名が参加。お母さんたちのお漬物など美味しい「持ち寄り」も嬉しい、なごやかな会です。



▲夏の研修合宿でのひとこま。さまざまな情報交換が行われました。



▲毎月1度の定期的な集まりは、年の違う子どもたち同士の間にも大事な関係性をつくっています。



▲ハロウィンパーティーには、バルーンアーティストさんが遊びにきてくれました。

DATA

■毎月第2日曜に開催する、登米・南三陸シングルマザー親子の会。2014年6月～2015年5月に10回開催 参加者のべ219名（講師、スタッフ含む）

〈コミュニティ〉

wawawa シングルマザー親子の会

みんなで安心して話せる場作りを
関わり方をまなぶ講座で、ともに成長

毎月第2日曜の定例会となった、シングルマザー親子の会「wawawa（わわわ）」。口コミで7家族19人が新たに参加し、2015年5月現在で17家族45人となりました。季節の行事、キッズサポーターによる子ども遊びとつながりの場、ママたちのまなびを続けるなかで、新旧メンバーが安心して会を続けられる方法を話し合い、運営のプロセスづくりにも力をいれました。

夏にはNPO法人オックスファム・ジャパンのご協力を得て初めての県外合宿「きらきらBOSHIリンク」を行い、岩手のシングルマザー団体itapとも合同研修で交流しました。子どもたち同士もすっかり仲良しになりました。

専門家による相談会、心と身体のお話、自己尊重トレーニングが、会自体とメンバー同士の信頼づくりにもつながっています。

〈コミュニティ〉

お楽しみ講座とワークショップ

テーマ型コミュニティのきっかけ
まなびを通じた出会いが仲間をつくる

震災後の仮の生活の中で、人が出会うきっかけとなる講座とワークショップはウィが最も大切にしている活動のひとつ。楽しさ、興味を引く内容、行って良かったと感じるまなびがなければ人は集まりません。

今年度始まった「第2のふるさとカフェ」は南三陸町への移住者や2拠点生活者をゆるやかに結ぶワークショップです。町内団体と共催し、震災を機にUターン、Iターンした若者たちの間で横のつながりが加速しました。

ウィの事務所のある宮城県登米市では、子育て中のママや保育士さんを中心にした実行委員会での話し合いを重ね、親子の防災ワークショップ「防災ピクニック®」*を誘致し、登米で開催しました。講師のロー紀子さんを迎え、実際に非常食を食べ、災害に備える心構えについて話し合いました。楽しいなかにも真面目に考える良い仲間たちができ、この取り組みは継続的に進んでいく予定です。

そのほか、織物や刺繍などの手芸、ヨガ、ダンス体操などのエクササイズ講座を通じて、人々の再会や交流が広がりました。なかでも刺し子ふう刺繍の歌津教室「りあんの会」は、自立した教室として成り立つよう、運営方法を参加者みんなで話し合っただけで、本格的な伝統工芸の刺し子に挑戦することになりました。

*防災ピクニック®はNPO法人ママプラダの登録商標です。



▲なかなか直接顔を会わせる機会がなかった若者たちがつながる機会になった「第2のふるさとカフェ」。ここで出会った出会いをきっかけに始まったプロジェクトも生まれています。



▲「ひこころの里」で刺し子ふう刺繍を楽しみました。



▲美紀先生のカラダメンテナンスで背中を伸ばそう！

DATA

■お楽しみ講座 2014年6月～2015年5月に47回開催 参加者のべ409名（講師、スタッフ含む）
■第2のふるさとカフェ 2014年6月～2015年5月に2回開催 参加者のべ42名（スタッフ含む）
／共催団体：bond place、南三陸deお買い物
■防災ピクニック® 1回開催 親子が合計38名参加



▲初めて開催した南三陸手づくりマルシェ。布バッグやアクセサリー、パン、菓子など、自慢の商品を作り手さん本人が販売しました。



▲ビーンズくらぶの「きなこドーナツ」、原材料がわかるポップをつけて紹介しました。

DATA

■ヒアリング案件13、スキルアップ講座（4回開催）参加者のべ53名、勉強会（視察会含む）10回開催 参加者のべ121名、研修 11回 参加者のべ41名

〈エンパワーメント〉

女性たちの小さな事業

一歩踏み出した女性たちを
まなびや相談、実践の場づくりで応援

「女性のまなざしで地元を元気に!」を合い言葉に、前年度から継続して女性たちのモノづくりや販売、経営、プロジェクト等のサポートを行いました。ヒアリングからスタートし、必要な場合には専門家を派遣。また、要望の高い分野のスキルアップ講座を開催しました（ポップ制作、コミュニケーション、商品写真、カラーコーディネート）。

今年度は南三陸町観光協会と協働し、ショップ出品者の連携づくりのため勉強会や視察会も行いました。この参加者たちが中心となり、2月22日、南三陸ポータルセンターテントで「南三陸手づくりマルシェ」を開催。16店舗出店、来場者数は約400名にのぼりました。このグループで、5月の連休にミニマルシェも開催しています。

一方、出展機会として、国際地域女性アカデミー会場で南三陸町の女性グループ4組による菓子・軽食でのおもてなしと国際交流を実施したほか、名古屋でのユニー（株）の復興支援イベント、東京・駒込観音はおずき市などで南三陸町の女性たちによる町外販売会のサポートや、委託販売を行いました。

モノづくり分野では、町内の「さとうみファーム羊牧場」と協力し、羊毛作家吉田麻子さんを講師に招いてフェルトや糸紡ぎ、織物、染色など羊毛加工の基礎技術研修、ワークショップ開催のための講師研修を町内の女性たち向けに実施しました。



▲羊毛作家の吉田麻子さんによる糸紡ぎの実演とワークショップ。近郊の糸紡ぎ作家さんが新聞記事を見て訪ねてきてくださったり、これを機にいろんな縁が広がりました。



▲志津川小での放課後ワークショップ。 ▲入谷小の子どもの絵本が大人気。

〈交流〉

東北での交流活動

アーティストといっしょにつくろう テクテクめぐる縁がわアートin南三陸

入谷八幡神社の例大祭の前後に、民家の縁がわをギャラリーにみたくて、展示をめぐるスタンプラリーを行う里山アートイベント。2回目の今年度もウィは実行委員兼事務局として、参加アーティストの受け入れや、広報などを担当。特に子どもとアートとのふれあい、展示作品づくりのワークショップに力を入れました。

また、古民家「ひころの里 松笠屋敷」会場では「おらほのくらふと展」として、刺し子教室生徒作品ほか、歌津小学校と名足小学校の家庭科クラブや町の女性たちのクラフト作品展示と、「南三陸おらほの学園祭」との共催で、町の女性たちが講師となって手工芸のワークショップを行いました。

DATA

- テクテクめぐる縁がわアートin南三陸 ウィ開催の事前ワークショップ
- スサイタカコ「まゆまゆふわへんてご遊び場」（於：志津川小学校、戸倉小学校）2回開催 参加者のべ60名
 - 中谷靖彦「絵本づくりワークショップ」（於：入谷小学校）2回開催 参加者・スタッフのべ83名
 - 乃村工芸社（株）「光の箱」プロジェクト 事前ワークショップコーディネート（於：南三陸町被災者生活支援センターほか）7回開催 参加者・スタッフのべ122名

〈交流〉

東京での交流活動

活動展「南三陸じかんin鎌倉」 谷中ワカメまつり、タコまつり

ウィの活動展「南三陸じかんin鎌倉」では、鎌倉の古民家スタジオを借り、写真展、海の幸の飲食ブース、女性たちの手づくり品の販売・PRなどを行いました。南三陸町から2人の女性（たみ子の海バックの阿部民子さん、慶明丸の三浦さき子さん）をお招きし、被災地の今を伝えていただきました。

また、同時イベントとして、震災前の南三陸町戸倉の海と生きる暮らしを丁寧に描いたドキュメンタリー映画「波伝谷に生きる人びと」の上映会および、監督のトークイベントを実施。この上映会の資金は、クラウドファンディングを通じて多くの方にご協力いただきました。

また、ウィの東京でのホームグラウンド谷根千エリアでは、サポーターが中心となって南三陸町の名産品にスポットをあてたイベント（11月：谷中タコまつり、4月：谷中ワカメまつり）を開催。秋のタコまつりでは地域の「芸工展」参加企画として、南三陸町の子供たちが描いた絵本や、女性たちの手芸作品など縁がわアートの



作品の一部も展示し、多くの方に足を留めていただきました。春のワカメまつりは、南三陸直送のワカメ販売と、しゃぶしゃぶ体験が好評でした。こうした催しは東京と東北との縁をつなぐ機会として定着しつつあります。

DATA

- 南三陸じかんin鎌倉 2015年1月24日 来場者：163名、映画鑑賞52名、ボランティアスタッフ18名
- 谷中タコまつり 2014年10月24日～26日 来場者489名
- 谷中ワカメまつり 2015年4月4日～5日 来場者180名



▲おかあさんがたに教わった、蒸し牡蠣、タラ汁などを提供。お客様もくつろいで楽しんでくれました。

〈防災・啓発〉

講演、セミナー、ワークショップ 被災地でのまなびを広げる活動を行っています

DATA

- WE防災ワークショップ～ライフボート
携帯できる防災アイテム「ライフボート」をつくるワークショップを、首都圏近郊で行っています。2014年度 都内各所で9回開催、参加者のべ88名
- セミナー、講演実績
宮城県復興支援会議、中央大学シンポジウム、国連防災会議ジェンダー勉強会、東大HSPセミナー、国連防災会議パブリックフォーラムほか



▲ライフボートワークショップの様子



▲防災ピクニック®のひとこま

2014年度 決算報告（概算）

2014年6月1日～2015年5月31日

収入	26,447,483
助成金	18,158,850
みやぎ地域復興支援助成金	9,163,000
東日本大震災現地NPO応援基金【特定助成】JT NPO応援プロジェクト(継続)	2,744,095
LUSH JAPAN チャリティバンク助成	2,000,000
ジョンソン・エンド・ジョンソン 市民・コミュニティのエンパワメントプログラム	1,591,868
赤い羽根共同募金「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」	1,230,000
米日財団	1,200,000
トヨタ財団 東日本大震災特定課題助成 2013 (*1)	129,887
三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンド	100,000
寄付	5,684,420
プロジェクト指定寄付	4,536,064
フィッシュファミリー財団 [クラウドファンディング] Ready for?	390,508
一般寄付	1,148,356
事業 (*2)	2,329,522
物品販売事業	1,265,568
自主事業	630,054
行事参加会費	433,900
会費	218,000
受取 利息	1,065
その他	55,626

支出	26,447,483
プロジェクト費	26,405,790
テーマ型コミュニティ育成	15,356,502
女性グループ事業相談	4,740,903
国際地域女性アカデミー in Tohoku (*3)	4,333,549
スモールビジネス販売支援	1,186,835
活動展など広報	658,921
防災啓蒙	129,080
管理費	72,450
法人税、住民税及び事業税	45,800
当期正味財産増減額	△ 76,557
前期繰越正味財産額	5,600,317
次期繰越正味財産額	5,523,760

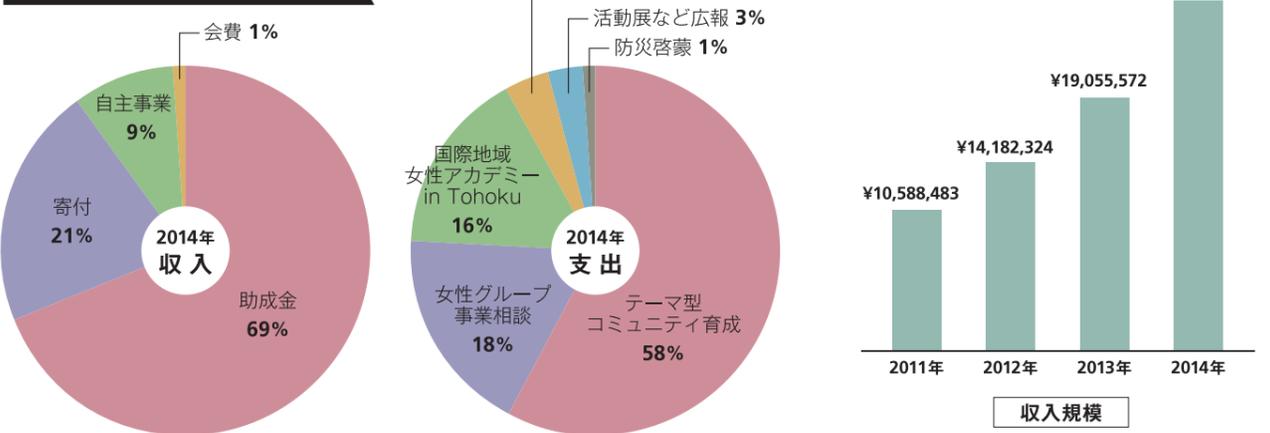
(*1) 2013年度決定、2014年4月～2015年3月の事業。助成総額は90万9,887円

(*2) 総売上高であり、経費を差し引いた収益額ではありません

(*3) ウィ予算からの支出額で、事業全体の支出額ではありません

★決算報告書はホームページ上で公開しています

ひとめでわかるウィのフィナンシャル



ご購入くださいました皆様（15000円以上 2014年6月～2015年11月）

Kielaハッピープロジェクト様、MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ事務局様、アサヒワンビールクラブ様、アンチヘブリンガンバザー様、倉田直子様、ボランティア団体 Aobo! 会、丸山真人様、吉田英様、考えるポーの会（オーストラリア パース）様、小泉靖子様、松瀬イネス倶楽部様、中村道代様、野口ともやす様

物品提供くださいました皆様（2014年6月～2015年11月）

ディー・エム・シー（株）様 [手芸糸等]、ダイマツ（株）様 [お茶]、日本たばこ産業（株）様 [飲料]



阿部民子さん

(南三陸町戸倉「たみ子の海バック」代表)

私が、仕事のことで気持ちに迷いがあった時、「南三陸まなびの女子会」の中越視察をきっかけにウィさんと出逢いました。地元でも知らない方が沢山いるなか、ウィさんを通じて人とのつながりやご縁を沢山いただきました。なによりなかなか経験が出来ない国際地域女性アカデミー in Tohokuに参加させていただき、それぞれの考えや思いが伝わりました。今後もつながりを大切にいろんな活動に参加できたらと思っています。



伊藤聡さん

(一般社団法人南三陸町観光協会)

ウィさんとは協会公式ショップ「みなみな屋」に手づくり品などを出店する方々のスキルアップ講座や研修を共同で開催、日を追うごとに商品の質や見せ方の工夫に出店者皆さんの個性が磨かれ、来店者も取扱額も年々上昇しています。2015年2月には出店者皆さんが主催者となって初の「南三陸手づくりマルシェ」を開催、その際にも全面サポートしていただきました。女性目線での賑わい創出やまちづくりに繋がる活動は今ではこの町には欠かせないものの一つです。これからも一緒に町を盛り上げていきましょう！

＊ WE の活動にふれて ＊



佐藤由依さん

(とめ女性支援センター スタッフ)

登米・南三陸シングルマザー親子会(wawawa)の参加者としてウィさんと出会い、今は会の運営にも関わっています。引っ張っていきながらも、肩を並べて話すウィさんのやり方に共感しました。一緒に活動し、諦めず行動することが自信につながったと思います。特に、自分の持っている「思い」をどう「行動」にするか考えるようになりました。1人では生きていけないけれど、1人ずつ輝いていける。そのための「人つなぎ」をしてもらっていると感じています。私もそんなサポートができたと思っています。



吉田穂波さん

(国立保健医療科学院主任研究官/産婦人科医)

ウィの石本さんには、女性やジェンダーの集まりでお会いし、スタッフ皆さまとも、とても気持ちの良いお付き合いをさせて頂いています。今、私が国の公共政策、少子化対策、母子保健という枠組みの中で一番尽力しているのは、「どうやったら災害の時に妊産婦と子どもを守るか」ということですが、被災地に暮らす人々の声を丁寧にすくい上げてウィの皆さんの取り組みから、多くのことを学ばせていただきました。弱い立場の人たちを優しく包み込み、力づけるウィの取り組みを、これからもずっと応援しています。

WEのビジョン

女性が自らをいかし元気に活躍できる

中期ビジョン

仮の暮らしが終わるとき、三陸沿岸被災地の女性たちが自らの場所でいきいきと活躍している

WEのミッション

女性たちを地域や社会につなげる
女性たちが必要な力をつける機会をつくる
災害を経験した女性たちの声を国内外に届ける



特定非営利活動法人ウィメンズアイ

Women's Eye

東北本部：〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字大網218-1 コンテナおおみ

代表電話：090-6065-1517

e-mail info@womens-eye.net ホームページ <http://womens-eye.net/> ブログ <http://womens-eye.blogspot.jp/>

Find us on Facebook ウィメンズアイで検索